

Robotics Report

新たな常識のはじまり

AIスピーカー、 変化する市場勢力図

nikko am
fund academy



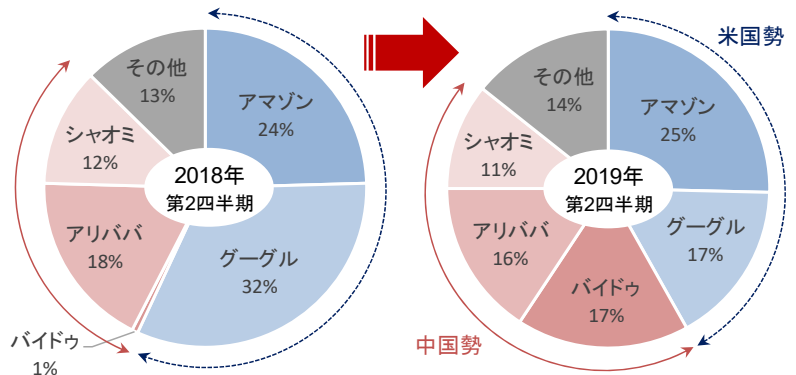
2014年に米アマゾンが販売開始した「アマゾンエコー」を皮切りに、広がりを見せたAIスピーカー市場。約5年が経過した現在、市場の勢力図はどのように変化したのでしょうか。 *AIは人工知能

■ 予測以上に成長するAIスピーカー市場

以前の当レポート（[2017年10月11日号](#)）で、世界のAIスピーカー市場規模予測について、2021年には2016年比5倍の約35億米ドル（約3,780億円*）に達する（ガートナー社）と紹介しました。

しかし最近の調査（デロイト社）では、2018年推計が約43億米ドル（約4,644億円*）、2019年には約70億米ドル（約7,560億円*）と予測されており、調査会社は異なるものの、予測以上に市場が成長しているようです。この成長要因の一つには、2017年時点で英語圏に限られていた販売が、多言語対応で非英語圏にも拡大したことがあります。特に、中国都市部での普及率（2018年調査）が最も高くなったようです。

【世界のAIスピーカー市場のブランド別シェア(販売台数)】



出所:Canalys Smart Speaker Analysis (sell-in shipments), August 2019を基に日興アセットマネジメントが作成 ※グラフは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

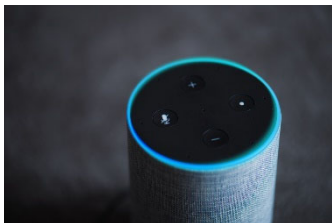
今後は、技術進歩による音声認識の正確性の向上、さまざまなデバイスへの搭載、生産コストの低下などにより、公共施設や工場、飲食店などへの展開が加速するとみられます。

市場調査会社Canalys社がまとめたAIスピーカーのブランド別シェアをみると、米中勢が8割以上を占めており、最近1年では中国勢の勢いが増していることがわかります。

*文中の為替換算は1米ドル=108円

■ 「インターフェースの変化」がAIスピーカー市場を押し上げる

多くの方は、「指」を使ってコンシューマー向けIT端末を操作していると思います。この操作をする際のコンピュータと人との接点がインターフェースであり、「指」の操作をより快適にさせたのが米アップルのスマートフォン「iPhone」でした。



※写真はイメージです。

最近では、「指」の操作から「声」の操作に移りつつあり、アマゾンをはじめとする多くのIT企業が音声認識AIに参入して、競い合っています。

音声認識AIは、今やAIスピーカーのほか、自動運転車や家電などのあらゆる端末に搭載され始めており、その経済的インパクトはさらに拡大するでしょう。今後、AIスピーカーの技術的源泉となっている音声認識AIの用途は、多方面に広がっていくとみられます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。